

景観形成の考え方

横浜スタジアム

スコアボード・サインージ計画

はじめに

横浜スタジアム スコアボード・サイネージ計画の目的

横浜スタジアムは、ハマのシンボルとして、横浜公園野球場、ゲーリック球場、平和球場と名称を変え、多くの横浜市民や全国の野球ファンの皆様に愛され、そして、支えられ、変貌を遂げました。

昭和53年のオープンから46年が経過し、この間、時代の変化やお客様のニーズに合わせ、幾度となく増改築等を繰返し今日に至っています。メインスコアボードは創建以来、表示面を更新して使い続けてきましたが、耐用年数より改修の時期を迎えています。また、他球場と比較した表示サイズが最も小さいことから観客サービスレベルの低下が課題となっています。

今回は、横浜スタジアムが、ハマのシンボルとして多くの市民に長く愛され続け、旧市庁舎街区の再開発と一体となって関内・関外地区のにぎわいに寄与するため、スコアボード・サイネージ計画を行うものであります。

景観形成を図るにあたって

本計画は、横浜公園が敷地となっています。公園内には歩行者ネットワーク街路が通過しており、都市プロムナードに面した敷地となっています。また、日本大通りや尾上町通りから目に留まる場所となっています。本施設は、すでにハマのシンボルとなる都市景観を形成しており、その景観の持つ魅力を損なうことないよう配慮した計画であるとともに、公園内により多くのにぎわいを生み出す工夫を盛り込んだ計画としています。

目次

計画概要	01
見え方の検証 - I	02
見え方の検証 - II	03
スコアボード（大きさ検証）	04
スコアボード（既存比較・位置検証・壁面緑化）	05
スコアボード（公園側見え方検証）	06
スコアボード（決定プロセス）	07
サイネージ（賑わい創出・空間演出）	08



1:スコアボード更新

2:サインージュ追加(4カ所)



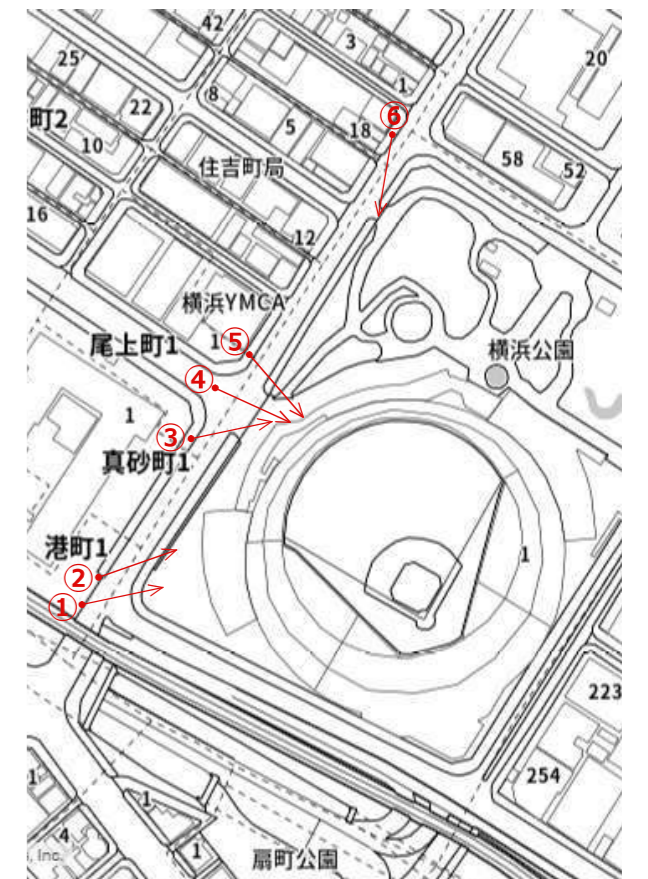
■ 計画概要

地名地番 : 横浜市中区横浜公園
用途地域 : 商業地域
防火指定 : 防火地域
高度地区 : 第7種高度地区
その他の地区指定 : 特別用途地区(横浜都心機能誘導地区)
 駐車場整備地区、景観計画、都市景観協議地区、
 緑化地域
敷地面積 : 63,787.16㎡
建蔽率 : 80% (都市公園法12%)
容積率 : 700%

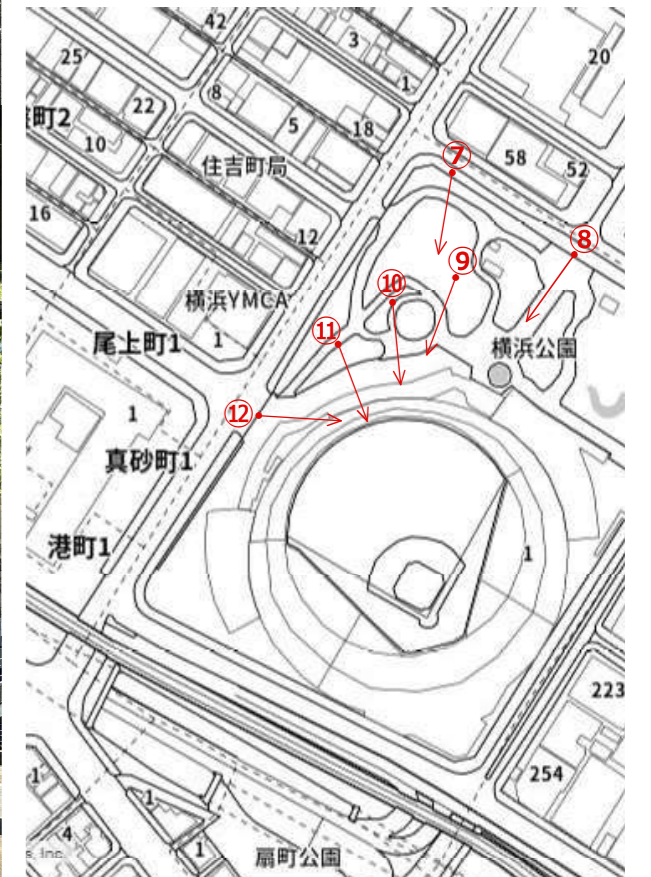
■ 建築概要

主要用途 : 観覧場
延床面積 : 約46,000㎡
建築面積 : 約23,100㎡
建蔽率 : 約37%
階数 : 地下1階 地上4階
建築物高さ : 最高高さ31m

見え方の検証 - I



見え方の検証 - II



スコアボード（大きさ検証）

■ 既存スコアボードの大きさ比較

スコアボードは1978年の創建時から同サイズであり、12球団で最も小さいサイズとなっている。既存LEDが耐用年数を超えることから、他球場の大きさを参考に老朽化したフレームを含め更新を検討。

LEDスクリーンサイズ比較

	幅 (m)	高さ (m)	面積 (㎡)	備考
東京ドーム	125.60	7.50	1,050	
セ ナゴヤ	106.00	10.03	1,063	
リ 神宮	27.20	12.00	326	
広島	37.44	7.04	264	
グ ハマスタ既存	25.40	9.90	251	
甲子園	29.76	8.32	248	
札幌エスコン	86.00	14.00	1,204	×2面
パ 福岡ドーム	120.00	17.92	2,150	5面合計
リ 西武			601	
千葉ロッテ	28.80	10.07	290	
グ 京セラドーム	34.18	8.45	289	
楽天	25.00	10.00	250	

※出典：週間ベースボール2024.5.6号ほか

	幅 (m)	高さ (m)	面積 (㎡)	備考
更新サイズ A案	88.00	約12.00	1,056	
更新サイズ B案	125.60	14.00	1,758	

■ スコアボード更新サイズの検討

幅125m（東京ドームと同じ）、高さ14m（札幌エスコンと同じ）では赤色点線となるが、ハマスタの照明塔間で高さを抑え、視線の抜けを考慮した青色点線で検討している。



■ 圧迫感・長大感を低減する検討

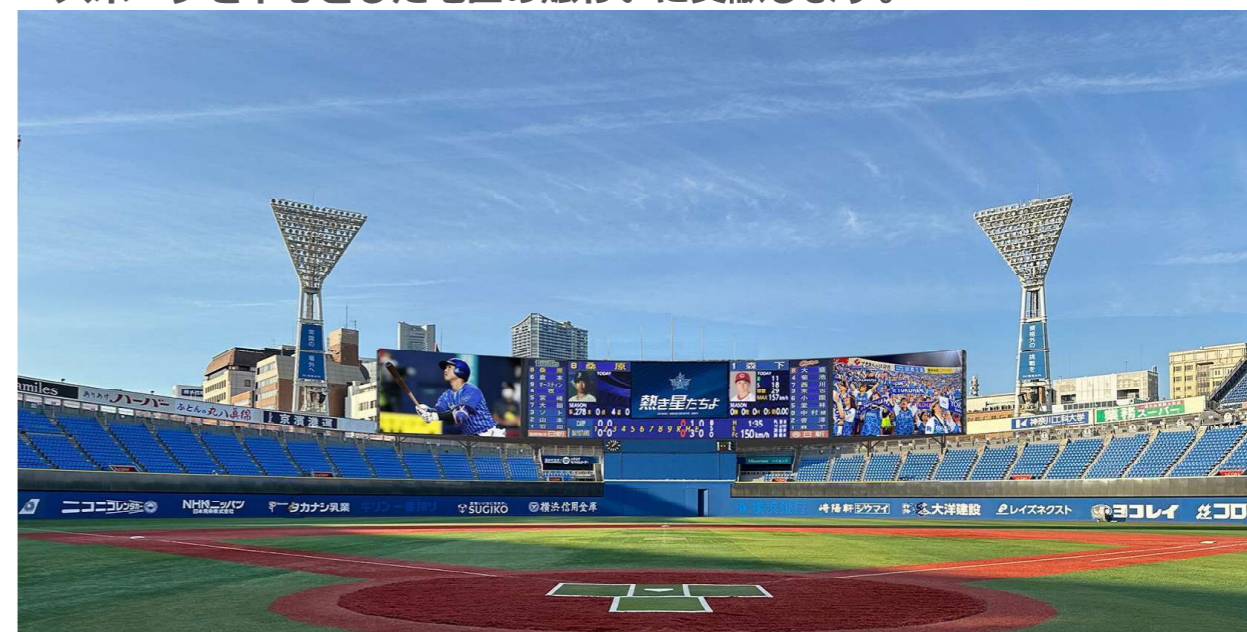
幅88m（平面はR形状）を緑化スリットで分節し、圧迫感・長大感を低減し、スタジアムサインを設置することで、尾上通り側に新しい写真スポットとなる“顔”を新設します。



緑化スリットによりボリューム感を低減

■ 関内地区の賑わいの中心としてのスタジアム

幅88mのLEDスクリーンは、世界に誇るプロ野球興行の演出の他、コンサートや様々なイベントの招致に重要な役割を果たします。結果として、関内地区の中心施設となり、当地区の特色であるスポーツを中心とした地区の賑わいに貢献します。



スコアボード（既存比較・位置検証・壁面緑化）

■ 既存スコアボードとの比較

既存スコアボードは、公園側にメンテナンス用の螺旋階段等があり上部に高さ2.5mの固定サインがあります。

更新スコアボードは、階段を内部化し、公園側は壁面緑化を行い、固定サイン中止で高さを0.5m低くして、公園との調和を図ります。壁面緑化は、全面でなくスリットとすることで既存躯体への荷重減、石川町側エントランスとの調和を意識したデザインとしています。

外部階段を設けない
スッキリとした外観

固定サインを設けず
最高高さは0.5m低くする



既存スコアボード（公園側）



既存スコアボード（球場側）



既存スコアボードとの比較

既存より高さを抑え、壁面緑化を行う。

■ センターから移動する検討

尾上町交差点から1塁側に移動する検討では、『日本大通り側の視線の抜け』と『1塁側ウイング席のセンター部分の視線確保』ができなくなるため、センターレイアウトとしています。



尾上町交差点側から移動する検討



日本大通り側からの見え方

■ スリットデザインの壁面緑化

石川町側エントランスの緑化スリットとともに、全体環境デザインの統一を図ります。



石川町エントランス



壁面緑化部分

スコアボード（公園側見え方検証）



たてガラス案

スリットガラス（ミラー）により空と緑を反射しボリューム感を低減



緑化案

壁面緑化を行う



テーパー案

コーナー部分の面取でボリューム感を低減



上部ガラス案

上部ガラス（ミラー）により空と緑を反射しボリューム感を低減
R形状の壁面に対し、多角ガラスとなる。



個室観覧席棟の緑化部分



ガラスへの空・緑の映込例

ガラスへの空・緑の映込例（拡大）

壁面緑化の例（個室観覧席棟）

スコアボード（決定プロセス）

■スコアボード公園側の見え方検証

公園側からの見え方検証では、圧迫感の低減と歴史ある横浜公園との調和、尾上町交差点側から来訪する人を向かい入れるスタジアムゲートサインを含め、市民に長く愛され続けるボールパークを目指して比較検討を行っている。

- ・テーパー＋一部ミラー案：左右と上部に面取を行い、圧迫感を低減。
- ・緑化＋一部ミラー案：緑化とミラーを組み合わせ、公園との調和を図る。
- ・緑化案：緑化スリットで圧迫感を低減し、公園との調和を図る。



テーパー＋一部ミラー案

緑化＋一部ミラー案

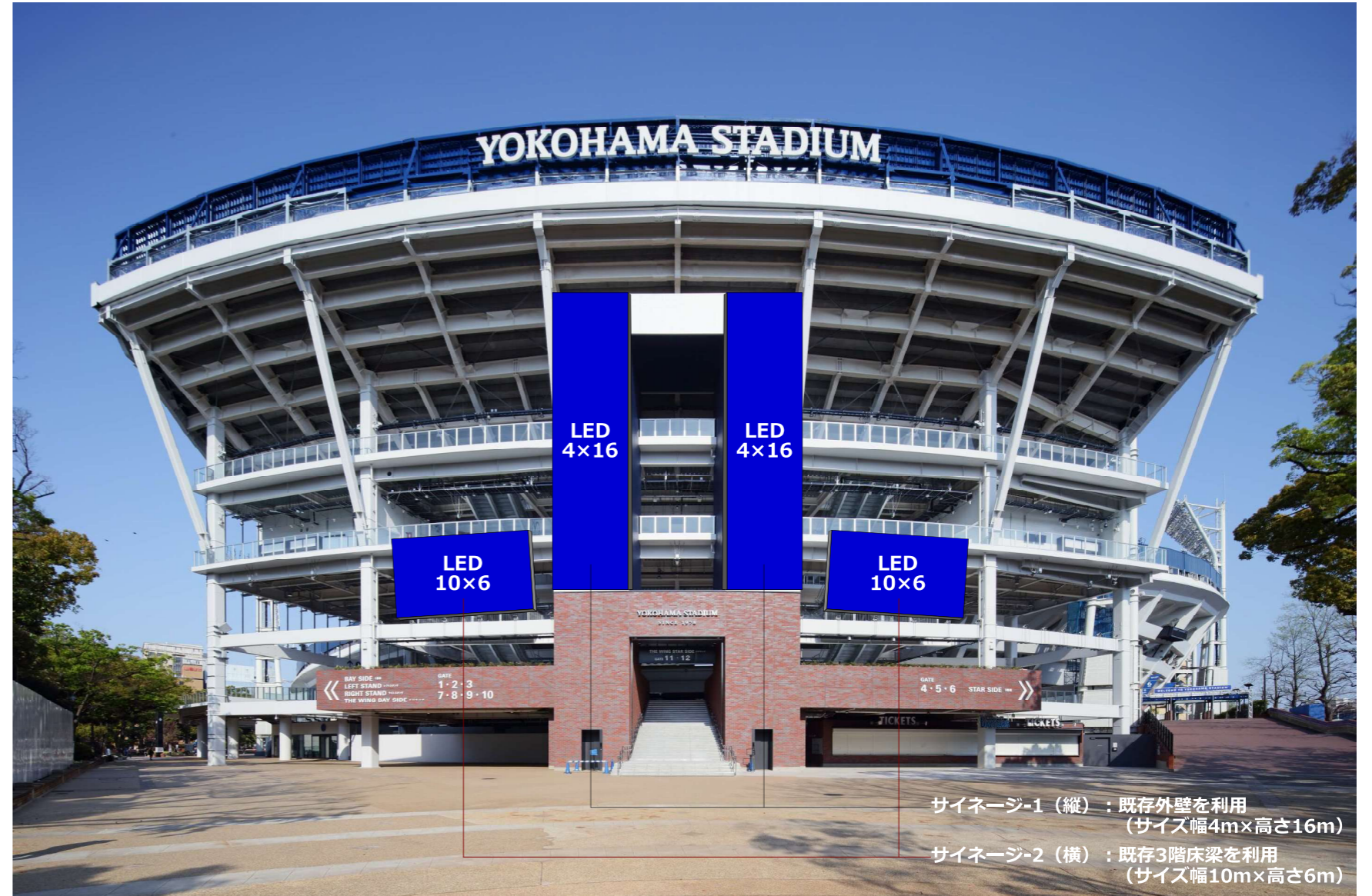
緑化案

サイネージ（賑わい創出・空間演出）



現状の交差点からの見え方

- ・ JR関内駅から交差点で横断歩道の信号が青になるのを待つ間、最上部スカイラインにはスタジアムのロゴ、サイネージ【縦型LED】の選手映像が人々の気持ちを高揚させる。
- ・ 横断歩道を人々が一齐に渡り、公園内に入ると目線に近いサイネージ【横型LED】に試合・イベント概要・案内が表示され、来場者を誘導する。
- ・ ハマスタへの来場記念として、インスタ映えする写真を撮影しホームとアウェイの応援席へと入場していく。
- ・ このサイネージのある場所が、ハマスタの顔シビックプライドの場となりスポーツを軸とした街づくり、産業創出を行い街の“賑わい創出”の発信場所となる。

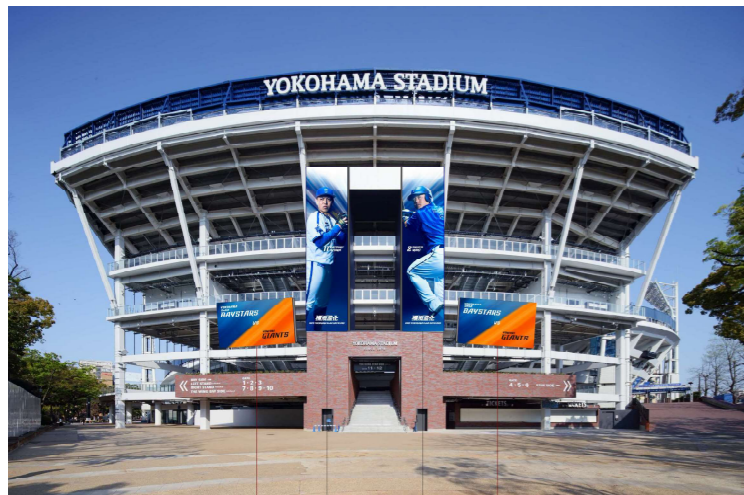


公園内からの見え方

サイネージ-1（縦）：既存外壁を利用（サイズ幅4m×高さ16m）
サイネージ-2（横）：既存3階床梁を利用（サイズ幅10m×高さ6m）

	プロ野球興行時	イベント（周辺地域含む）	通常時・その他
効果	試合観戦時の高揚感の促進	アマチュアスポーツファンに対して、ハマスタへの愛着が高まり、横浜のブランディングが高まる	周辺情報を表示し、回遊するきっかけを提供する
	ベイスターズ・横浜スタジアムのブランディング向上	イベントターに選ばれたライブ会場としての付加価値を高める	園内の新たな名所（フォトスポット）を創り、SNS等の拡散を図り、ブランディングを向上につなげる
	試合の賑わいを共有することで、街とスタジアムの一体感の醸成	イベント当日に限らず、事前・事後に複数回来街する目的をすることで、賑わい創出を拡大させる	有事の際の情報提供手段を確保することで、来街者の安全を図る

※ 現在の案はサイネージの設置高さが園内地区の景観計画の基準（建築物にあっては2階以下）を超過する計画となっています。



プロ野球 興行時



コンサート 興行時



通常時（横浜公園・スタジアムの歴史を伝える映像等）



通常時（周辺イベント情報等）

コンテンツは、今後、横浜市と協議していきます。